蛾

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
蛾

【Ｎコード】
Ｎ４６２５Ｋ

【作者名】
源雪風

【あらすじ】
一匹の蛾のほろ苦い生きざま。

無心に葉を食べ尽くす一匹の毛虫がいた。
蛾になれば幸せになれると信じて、早く繭を作ろうと生き急いでいた。
たまに、葉を奪い合って、毛虫が互いに傷つけあったり、夢などを語ったりした。
ともかく単純だった。

繭になっていく仲間を見て、まだ毛虫だったから取り残された気がした。
もう独りだと思った。
みんなより劣っていると思った。
その不安を、葉を貪ることで紛らわせた。
そして丸々太ってもう食べられないと思った時に繭になることができた。

繭の中で、本当に独りになった。
体が目まぐるしく変わっていった。
変わっていく不安を誰にも言えなかった。
寂しさと喜びと不安を抱えて繭から飛び出した。
羽を広げて、眩しく広い空へ飛び込む。

飛び疲れた。
眩しくてくらくらする。
どうやらじめじめした日陰の方が自分に合っているようだ。
明るい世界には、蛾に似ているが美しい蝶々が舞い踊り、仲良く二人で愛を謳っている。
自分もいつかああなるのだろうか。

いや、ならなくてはいけないのか。
見たくなくても、忘れたくても、空ではどこを見てもそんな光景が繰り広げられている。
嫌なものから逃げてたら、日陰にいた。

日陰にいても蝶々たちの笑い声が聞こえてきて、心が休まることは無かった。
毛虫の頃に信じていた幸せはそこには無かった。
あったのは繭になる前の、取り残されたような気持ちだけだ。

しかし明るい世界に出る気にはなれなかった。
前に進めなかった。
見てしまったからだ。
蝶々二匹がいつも通り囁き合っていると、すずめが片方を食っていった。
すずめに食われるのは、よっぽど不注意な虫だ。
蝶々は互いに夢中で、背後にいたすずめに気付いていなかった。
他の虫が必死で知らせる声も、聞こえていない。
声を出して知らせたりしたら、自分が喰われるかもしれないのを、わざわざ伝えてくれているのに。
愛する伴侶を失った蝶は悲しみのあまり火に飛び込んで死んでしまった。
火に飛び込んだ蝶をかわいそうだと思うと同時に、嬉しくなった。
勝った気がした。
自分の正しさが証明されたと思った。
子孫なんて、未来なんてどうでもいい。
このまま日陰で傍観していよう。

ある夜。
いつもの居場所から離れて、ふらりと羽ばたいた。

目の前に光を見つけた。
そこに行けば幸せになれる気がした。
毛虫の頃のように無心で飛んで行った。
光にたどりつく少し前の所で、すずめの晩御飯になった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4625k/

蛾

2011年1月15日23時31分発行